

平成29年度 第2回学校評議員会 会議録

- 1 日 時 平成30年2月8日(木) 13:30~15:00
- 2 場 所 本校 校長室
- 3 出席者 畑 中 新 吉 評議員 (JA新しいわて 代表理事専務)
下 村 進 評議員 (前岩手県警察本部スクールサポーター)
古 武 みどり 評議員 (国際ソロプチミスト盛岡)
小野寺 浩 評議員 (同窓会部活動後援会 監事)
千 葉 康 彦 評議員 (滝沢市立滝沢第二中学校 校長)
井 上 勝 巳 評議員 (PTA 顧問)
芳 賀 與 一 評議員 (川前地区自治会 副会長)

(学校側) 校長: 岩淵健一 副校長: 川村康也・牧一郎 事務長: 小保内敏明

4 会議録

(1) 挨拶 (岩淵校長)

- ・ 学校評価等に対する忌憚のないご意見等をお伺いしたいということで、今回は学校評議員と三役による学校評議員会とさせていただいた。
- ・ 日頃の教育活動への御支援、御協力に感謝している。
- ・ 報告として、本校動物科学科高橋幸平選手の平昌パラリンピック出場・菅原教諭の県選手権優勝・若松学校技術員の国体出場等。

(2) 自己紹介

全学校評議員から自己紹介と近況報告

(3) 学校評価結果について (牧副校長)

ア 資料説明

- ・ 集計表においては、課題を明確にする工夫として、ポイントにより○や●を付けた。
- ・ 調査期間を長めに設定し、寮生については修学旅行前の帰省に合わせて実施することで、保護者の回答率が全体として89%から96%に上昇した。
- ・ 調査項目は昨年度と同様としたが、責任ある記載を求めるため記名式とした。具体性のある提言が記載される一方、自由記載欄への記入が減少した。
- ・ 前回までに、保護者には答えづらい項目がある、という指摘が会ったことから、回答項目に「わからない」を設けた。

イ 保護者の評価について

- ・ 部活動、進路指導、職場体験、インターシップ等に係る項目で、「わからない」という回答が多く、情報提供の仕方に工夫が必要である。

ウ 教員の評価について

- ・ 回答率は100%である。昨年度に比べ評価ポイントが下降した項目が7項目から15項目に増え、評価平均ポイント3.0を下回った項目が4項目から12項目に増加した。全体の評価や日常の様子を総合して考えると、自らを厳しく評価し改善を図ろうとする意識の表れととらえている。

エ 生徒の評価について

- ・ 「授業はわかりやすいが、板書がわかりづらい」という評価が見られた。板書の工夫など、授業改善を図りたい。

- ・ 教科、プロジェクト、実習、農業クラブ活動については、「興味がわく内容となっていない」と感じる生徒が多くなっており、改善を急ぎたい。
- ・ 「よく読書をしている」が低くなっており、家庭における時間の使い方や図書館の利用について啓発したい。
- ・ 生徒会活動への関心では、昨年よりポイントが上がった。役員生徒は本当によく活動している。

(5) 意見交換から

校長 保護者の「わからない」を改善するためにも、『週2回見れば学校の活動が全て分かるホームページ』を目指して取り組むこととしている。学年・部活動・寮の活動や、学校で配付したプリントなどを掲載し、保護者に情報提供をしていきたい。

授業改善に向けては、授業評価も行っている。また、年2～3回教員相互の授業公開を実施しており、楽しい授業、先生の熱意が伝わる授業になるよう努めている。

学校評価アンケートを記名方式にしたことについても皆さんの意見を伺いたい。

A評議員 中学校では無記名としている。

B評議員 私ならどちらの形でも提案事項があれば記載するが、責任のある提案を求めるといふのであれば、記名式で良いのではないか。

C評議員 記名式だと書きにくい一方、無記名だと中傷や誹謗的な意見が増える。一長一短があると思う。このまま当面やってみて、不都合が生じたら、また直せばいいと思う。

校長 ご意見を受け、当面は記名方式で進めていきたい。次に、学校評価について伺いたい。

A評議員 あんなに素晴らしい研究発表会を開催しているのに、「興味・関心が持てる教科・科目、プロジェクト研究がある」の質問項目に対して「わからない」という回答が多いこと意外だった。

保護者に「わからない」が多いのは、生徒と保護者の会話が少ないことが要因ではないか。保護者の評価は、全体的にマイナス評価が少ない。

校長 プロジェクト研究の評価が低いのは、質問の形式が悪かった面もあるので改善したい。保護者に「わからない」が多いのは、情報提供不足にも原因があると思うので、これも改善を図りたい。

B評議員 生徒の読書時間が短いのは、スマホに原因があると思う。

保護者に「わからない」という回答が多いのは、積極性の違いだと思う。PTAとしても意識改善に取り組んでいきたい。

D評議員 ホームページでの情報発信は良いことだが、教員の多忙化が話題になっており、先生の負担が多くなるのではないか。

校長 教員一人が1日5分の入力で済み、プリントも一人当たり月1～2枚の入力で済むように仕事を分担し、個々の職員の負担が少なくなるように検討している。

D評議員 保護者に何でも教えることはいいとは思いますが、伝える内容を選択するなどして、あまりサービス過剰にならないように進めてほしい。

C評議員 平成25年度から質問項目が変わっていないが、質問項目を変えることも必要ではないか。

校長 他校では3年毎の見直しが多い。課題となっている項目は残し、「スマホ」の取り扱いを加えるなど、質問項目の変更について考えたい。

また、生徒には「本校に入ってよかった」、保護者には「本校に入れてよかった」という質問項目を追加したいと考えている。2年生、3年生と評価が高くなるようになれば望ましい学校ということになるので、その把握の面からも評価項目に加えたい。

E評議員 保護者の回答に「わからない」が多いことに疑問を感じる。子供の学校に関心がない人がなぜ多いのか不思議である。私でさえ、盛農の新聞記事などは注視して、活躍を多く知っているのだが。

校長 活躍している部活動等には関心を持っている保護者も多いと思うが、活動が表に出にくい部については情報提供が少ないのではないかと感じている。

文化部である写真部、吹奏楽部、演劇部、美術部なども高文連などを発表の機会として一所懸命活動している。ホームページ等で、しっかりと情報提供をする必要があると感じている。

F 評議員 児童相談所に来る子どもらに、「銀の匙（スプーン）」という漫画を見せたり、農業の楽しさを話したりしながら、盛農のこともPRしている。私は盛農を卒業したことを誇りに思っており、ぜひ魅力ある学校にしてほしい。

G 評議員 個人経営の農家で、売り上げ10億円という方もいる。農業の明るい展望を後継者に見せていくことも農協の使命として頑張っている。

校 長 農家出身の生徒でも1～2割しか就農していないという実情が全国的にある。これからIT社会に進んでいくと思うが、その中心にいる生徒らに、「命を育む」という本校の特性を基盤に、自分を見失わずに歩む土台を作ってやりたい。

次に、教員の自己評価に対してでも良いので、来年度から本校で取り組んでほしいことなど、本校教育活動に対するご助言をお伺いしたい。

A 評議員 「学校経営、教育方針が全職員の共通理解が図られている」の評価が高いというのは素晴らしい。

清掃については低い評価になっているが、中学校では掃除をしっかりとやるので、生徒に自覚させれば改善されると思う。

B 評議員 毎年、牛を見て泣いた生徒が何人いた、という話を聞いている。虫がダメという生徒も入学してくるようである。入学してから、牛や虫がいることに驚く生徒がいると聞く。入学する中学生への事前説明等をお願いしたい。

D 評議員 盛農祭では、毎年ネギ、シクラメンを買わせてもらっている。盛農生全員に農作業を体験させることは、とってもいいことだと思う。

牛の乳も搾乳後に飲ませるのもいいのではないか。

C 評議員 昔と比べ、学校生活は充実していると感じた。私の時は、寮生活に耐えられず入学して1ヶ月で2人学校をやめた。挨拶等が身につくなど、良い面があるので頑張してほしい。

E 評議員 インフルエンザの教員の予防接種の受診率はどの程度か。昨年、評議員会に出席している先生に聞いた時には、予防接種を受けている人はほとんどいなかった。

校 長 全職員に向けて、インフルエンザの予防接種は義務であると呼びかけをした。今年は、これまで教員2名、事務1名が罹患している。生徒については、罹患者は多くはなく、学級閉鎖等はない。

G 評議員 就職後に早い段階で退職するケースがあるが、入社してから社員教育を行うとはいえ、就職指導のところでも生徒と仕事内容との適性をみてほしい。

校 長 就職は100%となっているが、各生徒の能力等を上げたうえでの成果なのかを、問い続けていきたいと考えている。教員や親から勧められるままに、就職してしまう生徒もいるのかもしれない。インターシップなどの職業体験を通して、適性を見極めながら就職指導をしていきたい。

(6) その他

- ・ 施設設備の改善箇所の報告

寮におけるウォシュレットトイレへの改修・玄関のオートロック設置・防犯カメラの設置、牛舎改築工事の概要と事後評価について説明。